学校だより　令和7年9月11日

成徳の風

NO. 9

桑名市立成徳中学校

全国学力・学習状況調査結果の分析

今年度は4月17日（木）に「全国学力・学習状況調査」（国語・数学・理科）が実施されました。夏休み前に、その個人結果を3年生のみなさんには返却しました。今回の実施における、本校の調査結果の主な傾向分析と今後の教育改善についてお知らせいたします。

なお、この分析は3年生の調査結果の分析ではありますが、2年生までが出題の範囲であることや成徳中学校区全体として考えると1・2年生にも同様の傾向があるとも考えられますので全体に報告をします。
これから生徒の皆さんが何を大切にしていくことが必要となるか等、今後の参考にしていただきたいと思います。

【教科について】Ⅰ:国語、Ⅱ:数学　Ⅲ:理科

Ⅰ:国語

「知識・技能」や「思考・判断・表現」の領域については、他の項目と比較し、全体的によくできていました。文章を読み取り、選択肢から選ぶ問題については正答率が高く、物語における登場人物の関係性や言葉の意味を理解し、とらえることは出来ています。文章教材を通じて、読み取る授業の積み重ねの成果であると考えています。しかしながら、**「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域については、**課題が見られました。 はじめに、「話すこと・聞くこと」については、スライドを使って、相手に説明する等の「表現を工夫する」ことや「読み手の立場にたって」文章を整えていくことが苦手な傾向が見られます。自分の伝えたいことは明確にはなっているものの、それを相手に伝わるような工夫を考え、実行していくことが必要と考えます。具体的には、各学年の授業の中で、自分の思いや考えや読み取ったことを、まずは形にすることに取り組んできました。この課題を達成するためには、さらに、一度書いたものを推敲する機会をさらに増やし、ペア学習や小グループ活動において、意見を交換しながら、さらに良く伝えるためにはどうしたら良いかを工夫し、実際に発表する機会をもつなど、日々の授業のなかで、「読み手の立場にたって」「表現できる」よう、継続して取り組みます。「書くこと」については、継続的な課題として取り組んできた条件付きの問題に今回も課題が見られました。この課題を達成するには、文章を読み取る力も必要とされます。更には、語彙力、漢字の読み書きなど基礎的な力がベースになければなりません。今後は、更に1，2年生で、語彙を増やす活動や、ことばを活用する活動を多く取り入れ、基礎力向上に力を入れていきます。そして3年生になった時に複合問題に取り組む機会を増やし、3年間を通して書く力がついていくように取り組みます。

Ⅱ:数学

2年生のみえスタディチェック時に課題であった「関数」の領域については、一定の成果がみられました。特に2年次の学習である「一次関数」の正答率が高い結果でした。さらに**「図形」「データの活用」の領域について**も、正答率は高いという結果がみられています。「図形」「データ活用」については、小学校で学習した内容との関連が大きく、小学校からの積み重ねが成果につながったと考えられます。さらに、「図形」については、中学校数学の分野で最も範囲が広く、授業時数も多く扱っており、今まで学習してきた内容と関連付け、授業でも時間をかけ、繰り返し学習しながら、丁寧に取り組んできました。 数学は積み上げの教科であり、土台を作ることが大切になる。1、2年生の時に取り組んだ少人数授業によって、より個に応じた指導ができ、数学の基礎力の定着につながった。3年生になって少人数授業はなくなったものの、TT の教員と一緒に生徒の「わからない」を問題を丁寧に取り組むことができている。引き続き、取り組んでいきます。

一方で、**「数と式」の領域について、**正答率が最も低いという結果となっています。この分野は、数の性質や割合など、普段の生活と最も密接している分野であり、それが故に、普段何気なく考えていることを文字や数字を用いて考えることが難しさを生んでいるように思います。特に、「百分率」や「歩合」などの割合の計算は、苦手意識が強い面がうかがえます。さらに、数学の問題全体を通して、正答数の中央値が6問であり、15問あるうちの4

0%の割合になっていることから、数学に対して苦手な生徒が多い状況があります。一方で、10問（全体の3分の2）以上正答した生徒は、全体の約25%いることから、数学が得意な生徒もいることがわかりますが、苦手な生徒との差の開きが課題です。数学は「積み上げの教科」であり、予習や復習の時間が大切になります。積み上げの教科だからこそ、普段の学習が非常に大切になります。中学校３年間における系統だった取組や定期的に1，２年生の復習の問題を家庭学習の課題として取り組めるよう、学び直しの機会や反復学習の機会をもちながら、引き続き取り組んでいきます。

Ⅲ：理科

「エネルギー」や「粒子」を柱とする領域については、知識や実験結果等を問う問題について、正答率が高いという結果となっています。しかし、「地球」を柱とする領域について、地層にかかわる問題については、やや苦手な生徒が多いという結果となりました。全体的に、調査結果から、実験の概要を読んで理解する力や実験の動画を見て考察することに苦手意識がみられます。具体的には、動画を見て「これは何の実験か」「結果を表やグラフでまとめてあるものを読み取る」などが弱いです。

この結果から授業において、実験や動画を見て、自分の考えを「〇〇が△△だから□□になった」と理科用語をふまえて、詳しく表現できるような取組をし、小グループ学習を大切にし、探究的な学びの場を設定していきます。また、１年生からの系統的な学びにおいて、興味が沸く教材から、理科用語を覚えられるような手立てをしていきたいと考えます。身につけた力を活用することで、問題解決に向かう成功体験や達成感を感じる授業展開や家庭学習へのアプローチを行っていきたい。

【生徒質問紙より】

① **基本的生活習慣**

「毎日朝食を食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」などについて、基本的な生活習慣が定着している生徒が県平均よりも少し高い結果がみられました。

② **挑戦心、達成感、自己有用感など**

「**いじめはいけないと思う**生徒」は、9割強と高い結果となりました。しかし、そう感じていない生徒も数ポイントいることから更に仲間づくりや日々の教育相談など、小さなサインに気づく体制づくりから、「いじめは許さない」という全体の意識向上につなげていきます。また、**人の役に立つ人間になりたい**と思っている生徒についても9割強と高い傾向にありました。しかしながら、「将来の夢や目標を持っている」「自分には良いところがある」「普段の生活のなかで幸せを感じる」という生徒が全国・県の平均よりも少し低いなど、自己肯定感が低い生徒が全国、県に比べやや多いという結果となっています。

③ **学習に対する興味・関心や授業への理解度**

学習塾や自宅で学習をしている時間は、全国や県よりも少ないという結果が見られました。また、「わからなかったことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか」の項目において、全国、県に比べやや低いという結果となっています。た、各教科ともに見受けられる傾向として、何を問われているのかを問題文の中から理解することに弱さがあります。授業や読書活動だけでなく様々な生活の場面でも語彙力や読解力を身につけることを意識した生活を心がけることも必要だと思います。

【まとめ】

以上のように、今年度の「全国学力・学習状況調査」の本校の主な特徴をまとめました。

自分に自信を持てないなど「自己肯定感」がやや低い傾向にあります。将来の夢や目標を前向きに考えられるよう、また、夢や目標を持つ機会を増やせるような「出会い」を意識したキャリア学習の充実を図り、経験と結びつく体験授業などを粘り強く取り組んでいきます。学習については、直前に学習した内容や復習してきた内容に対しては正答率が高いことから、学習の定着に課題があると思われます。学習の定着のためには、時間管理ができる力を身につけ、毎日の家庭学習の習慣化を図ることが重要です。更に「わかる、できる」授業を目指し、授業改善をしていく必要があります。さらに、タブレットを効果的に活用し、生徒間・生徒と教師間のやりとりで、学びが深まるよう更なる効果的な活用を進めていく。各教科はもちろんのこと体と心の健康チェックなど、ICTを併用することで生徒一人ひとりの悩みや不安に対応できる体制をつくっていきます。

桑名市における令和７年度「全国学力・学習状況調査」結果概要については、桑名市 HP をご覧ください。